



# 行動の人生に 生命の喜び

春は命の喜びの季節である。

桜が葉桜に変わり、日の光が一段と強さを増すころ、赤、ピンク、白の花で、見る人を楽しませるのがツツジ。写真は八王子市の東京牧口記念会館。2007年5月、池田名誉会長がカメラに収めた。

「ツツジ」の語源には諸説あるが、「続き咲き木」から来たともいわれる。鮮やかな花卉の連なりは、勝利から次の勝利へ、「行動の春」を進む友の心を表しているかのようだ。

名誉会長の第3代会長就任から

55周年の5月3日は、もうすぐ。

大佳節を迎える歓喜は、自ら戦いを起こし、困難を乗り越え、勝ち抜いた手応えの中にあると決め、きょう一日、一瞬一瞬に、悔いなき「生命の日記」をつづりゆこう。



来日したブラジルをはじめ海外の同志に、こぶしを上げ、エールを送る池田名誉会長。「広布のための労苦は、全部、幾千幾万倍となって、わが生命に返ってきます。それが妙法の力です」と（2004年4月、東京・八王子市の創価大学で）

人生の「喜び」というものは、  
安逸の中にあるのではない。  
なすべきことに  
前向きに取り組んでいるときに、  
人間は一番、  
充実して楽しい。  
快活な生命の勢いは、

闘争の中でこそ、  
生まれてくるものだ。  
信心の世界は、  
はつらつと、  
歓喜に燃えて  
頑張ったほうが「得」である。

その行動力の分だけ、  
自分自身が  
「永遠の幸福」の軌道を  
生きることになるからである。

どんな喜びも、  
満足も、

それだけでは、  
時とともに色あせる。

ゆえに、「幸福」は  
「向上」の中にある。

たえず「よりよくなっていく」  
自分自身の戦いにある。

「戦い続ける」  
「前進し続ける」人生にある。

皆で楽しげに、

人生勝利の歌を歌おう！

君と私どもは、

高遠な交わりをなす、

正義の剣をもった同志だ。

胸に温めた汝自身の

決意と希望と

快勝の歴史を、

永遠に残すのだ。

そこには、

後世の審判に恥じぬ、

尊い魂と正義の旗が

三世に翻ってゆくであろう。